

学校支援を積極的に進める

児童が安全で、楽しく、のびのびと学校生活を送るために

長久手市立市が洞小学校PTA

1 はじめに

長久手市は、名古屋市の東側に位置し、面積は 21.555 平方キロメートル、人口約 5 万 5,000 人であり、平成 24 年 1 月に市制を施行して現在の長久手市となった。名古屋市に隣接した市西部は住宅地・商業施設などが多く都市化が進んでいるが、市東部は自然が多く、市街化された都市と自然豊かな田園の両面を併せもっている。

本校の歴史は新しく、平成 20 年 4 月に町立西小学校と町立南小学校の一部が分離し、開校した。令和 5 年度は、児童数 1,002 名、35 学級でスタートした大規模校である。“児童も教職員も明るく笑顔あふれる学校”を目指し、各家庭、学校、地域社会が連携した教育活動を進めている。



【市が洞小学校校舎】

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

本校の P T A は、児童が安全で、楽しく、のびのびと学校生活や地域生活を送ることを本来の目的として考え、活動している。しかしながら、昨今、P T A 活動に対する世論の変化、共働き世帯の増加、児童の減少により、P T A 役員等の担い手が減っていくことが予想される。そのような状況において、学校と P T A がますます地域社会と連携し、地域社会と共に成長し続けることができる学校支援を目指すことが重要と考え、研究活動のテーマとした。また、今後の持続可能な P T A 活動のために、P T A の運営組織、および活動内容のスリム化にも、まさに着手し始めたところである。

(2) P T A の組織の概要

令和 5 年度は P T A 役員会 6 名（会長と副会長各 1 名、総務 4 名）と学年委員 42 名から構成されている。学年委員は研修部、

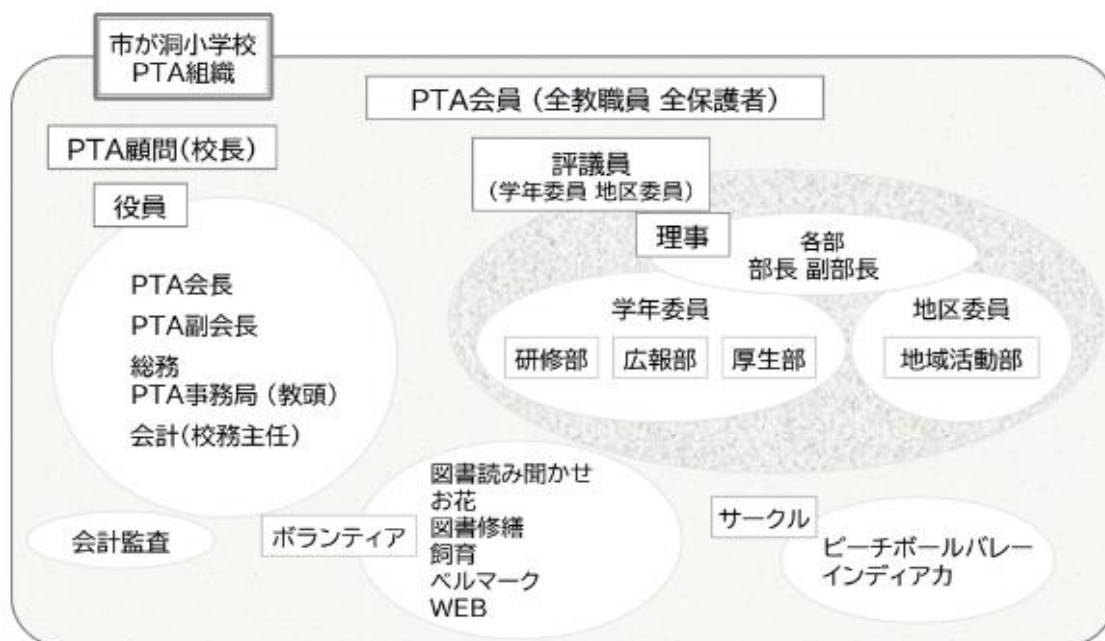
広報部、厚生部のいずれかに所属している。

研修部：親子向け講座の開催、各種講演会・講習会の開催等

広報部：PTA新聞の発行、各種行事の取材等

厚生部：給食試食会やリユース展の開催、運動会のサポート等

また、地区委員40名程（各分団から選出）からなる地域活動部は、通学路の安全点検や登校の見守りなど、地域社会との連携により児童の安全を支援している。



3 実践活動の概要

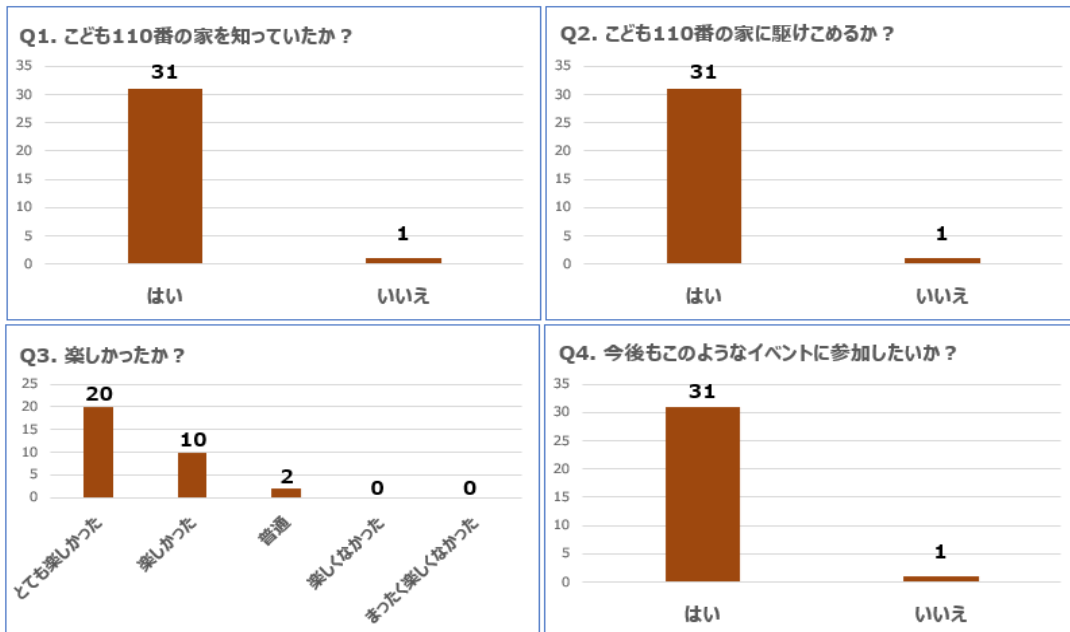
(1) 地域社会と連携した取組その1（ウォークラリーイベント）

本小学校区には、こども110番の家が50か所程度存在するが、“児童がその存在を知らない”という声が保護者から寄せられていた。そこでPTA役員会の企画のもと、市が洞小学校区まちづくり協議会（以下「まち協」と表記）との共催で、こども110番の家を巡るウォークラリーイベントを開催した。本小学校区を北と南の2つの地域に分けたところ、それぞれ約20か所のこども110番の家を巡るコースとなった（直線距離にして約2.5キロメートル）。クイズ形式のスタンプラリーにしたことで、学年を問わず楽しく参加することができた。また、本イベントでは警察署による防犯講座



【中日新聞に掲載された当日の様子】

も開催し、児童が自分の身を守ることの大切さを学んだ。イベントの運営に必要な人手や物品購入については、PTA役員会だけではなく、まち協にも負担してもらうことで金銭面を含めた運営負担を最小限に抑えることができた。こども110番の家の現状把握（看板の老朽化や紛失など）にも効果があったため、参加した保護者や児童はもちろん、市や警察署からも今後も継続して実施すべき活動として認知された。



【イベント終了後のアンケート結果】

(2) 地域社会と連携した取組その2（児童の下校見守り活動）

本小学校区には、市と警察署が危険と認める交差点がいくつか存在する。その中でも特に危険な場所については、教職員や交通指導員が下校時の見守りを実施している。しかし、学校から離れた場所では、一斉下校時に往復と見守りで1時間近くかかるときもあり、教職員にとって大きな負担となっていた。

そこで、PTA役員会として何か協力できないかと考えた結果、今年度のPTA会長がまち協の役員を兼務していることもあり、PTA役員会と地域とがタッグを組み、市の職員とも連携しながら広く市内の民間企業に支援を募ることとした。そのような中、当該交差点近くのコープあい



【下校見守りの様子】

ち名東センター様（以下「コープあいち様」と表記）に支援していただけることとなった。令和5年4月より週2日の下校見守り活動を継続していただいている。地域貢献が企業イメージの向上につながるなど、企業側メリットを訴求できたことも成功要因として挙げられる。見守り活動を担当するコープあいち職員様より「児童からの“いつもありがとう！”という言葉に非常にやりがいを感じる」とのコメントをいただき、地域貢献に対する潜在的なモチベーションを確認できたことも大きな収穫であった。

(3) 持続可能な学校支援に向けたPTA活動のスリム化への取組

例年、PTA役員や理事・学年委員の選出に苦勞しているが、PTA活動への任意参加があえて明文化され始めた昨今においては、ますます担い手確保が難しくなると考えられる。持続可能なPTA活動に向けて、“PTA活動は煩雑で面倒”というイメージをまず払拭することが先決であると考え、PTA活動のスリム化にチャレンジしている。「児童の健全育成のために、学校の教育活動を保護者として支える」というPTA活動の主旨に立ち返り、活動内容の50%削減とそれに見合った運営組織の見直しを検討している。また、今後は「できるときにできることを」の精神で学校支援をするため、ボランティア募集の機会を増やすと同時に、児童の保護者に限らず、地域のシニア人材などにも広げていきたいと考える。

各部	現在の主な活動	見直し案
研修部	保護者や親子向けの講座や講演会	学校で実施する児童の出前授業等と一緒に参観することで研修会とする
広報部	年3回の広報紙の発行	年度初めの学校の様子や教職員を紹介する年1回のみの広報紙の発行とする
厚生部	リユース展	現状と同様に実施する
	給食試食会	
	記念品	なしにする
地域活動部	児童の安全を守る役割のため、現状維持とする	

【PTA活動内容の見直し案】

4 おわりに

「児童が安全で、楽しく、のびのびと学校生活や地域生活を送ること」という目的を達成し続けるために、PTA活動は、これまで以上に地域社会と連携できる社会性と、PTA活動の中で残すべきものは残し、変えるべきものはトライ&エラーをしながら変革していく柔軟性がますます求められることを今回の研究テーマを通じて実感した。これからも、学校支援を継続できるPTA活動であり続けたい。